



## 定時社員総会を実施①

6月19日に2025年度定時社員総会を開催しました。定時社員総会では、2024年度事業報告書及び決算報告書、2025年度事業計画書及び収支予算書、理事・監事の選任について承認されました。また、引き続き開催された臨時理事会において、新執行体制が決められました。理事・会長としてウィリアム・エドワード・ウェブスター・ジュニアが再任、代表理事・理事長として加藤功が再任され、全事業者のCEOが理事に選任されました。

社員総会后、会長のウェブスターから2024年度の産業界及びJANSIの現況を総括し、今後の展望について会長メッセージを発信しています。なお、2024年度のJANSIの活動状況については、「JANSIアニュアルレポート2024」にまとめ、ホームページで公開しています。

### 【2025年度における重点活動の展望〈会長メッセージ全文は[こちら](#)〉】

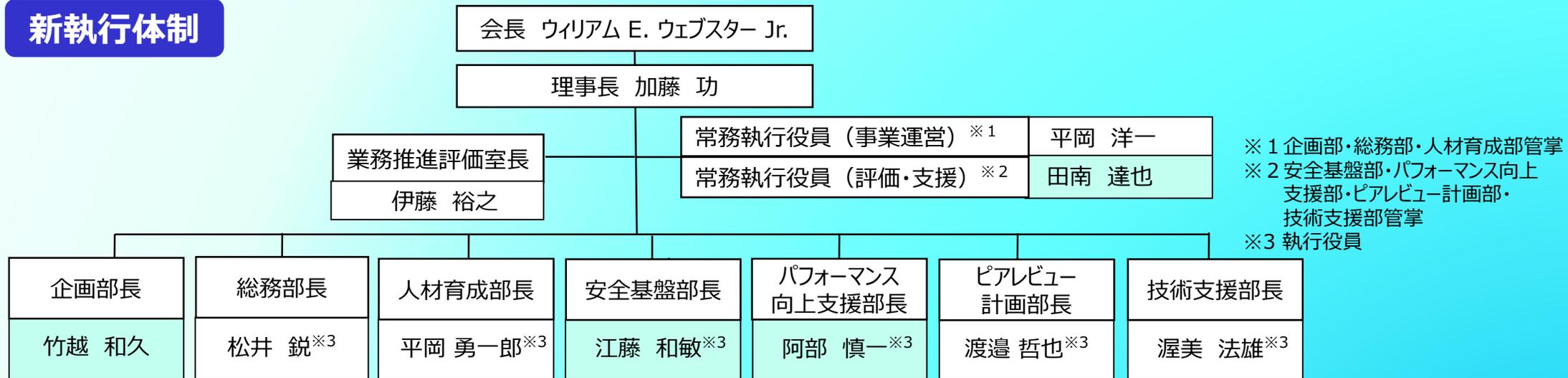
- ① ピアレビューについては、WANOとの同等性の更新手続きを進めつつその有効性もさらに高めていきます。
- ② 原子力発電所のパフォーマンスをモニタリングし継続的な改善につなげる活動は、発電所と本社のパフォーマンス両方にわたる幅広いモニタリングの枠組みへの統合を進めます。
- ③ 原子力産業界全体のパフォーマンスの傾向に注目し、国際水準に達しない分野があれば対応策を講じます。まず、原子力事業者の協力会社の労働安全とその集団被ばく線量の低減です。これらの分野における諸問題のより良い把握および検討と、高いパフォーマンスを維持するための改善策の実施を目的として、2つの検討会を設置しました。
- ④ 教育訓練で知識・技能を習得して終わりではなく、実際に業務を実施する時に、課題を特定し適切に対処できる能力（プロフィシエンシー）を発揮できる取り組みを始めます。JANSIでは、お互いに毎日何かを教えあつ学ぶことが組織文化の一部であると考えています。

# JANSI トピックス

## 定時社員総会を実施②

2025年7月1日からの新執行体制(新任者は緑表示)

### 新執行体制



# JANSI トピックス

## 発電所特別表彰を実施

JANSIでは、原子力発電所の安全性向上への取組みのうち、個別の分野で他社の手本となる活動を称え「JANSI発電所特別賞」表彰を実施しています。第7回となる2025年は、関西電力大飯発電所における「自主的安全性向上への積極的な取組み」が受賞し、加藤理事長より記念の盾が贈呈されました。

JANSIでは、これまで、原子力事業者に対して、安全性向上に関する様々な提言を発出してきました。関西電力大飯発電所では、これら提言の発出当初から積極的に自主対策の充実に努め、安全性、信頼性の向上を図り、他電力の模範となるような取組みを行い、PWRに関わる提言項目について対応してきました。

このような大飯発電所の取組みは高く評価されるべきものであり、今後、国内の全原子力発電所の安全性の維持・向上に寄与するものです。



2025年JANSI発電所特別表彰を受賞した関西電力 森社長、大飯発電所 土肥所長



授賞式でスピーチされる大飯発電所 土肥所長



# JANSI トピックス

## 第18回安全文化ワークショップを開催

2025(令和7)年5月19日(月)、20日(火)の2日間にかけて中間管理職の方々を主な対象として、第18回安全文化ワークショップ(基礎編)を開催しました。

「組織の活性化と安全文化の創続」をテーマに、リーダーシップの基礎、リーダーシップと集団理解、リーダーシップと組織の活性化に関わる情報提供とグループワークを行い、ご参加いただいた方には職場において実践する行動目標を設定いただきました。

行動目標については、8月18日(月)、19日(火)に開催予定の「フォローアップ編」で、振り返りと分析を行うことにしています。

- ・安全文化ワークショップの実績については[こちら](#)
- ・第18回安全文化ワークショップの詳細は[こちら](#)



熊本大学名誉教授 吉田道雄先生によるユーモアを交えた説明は参加者からもご好評をいただきました

## 重要度文書発行状況・内容概要を更新

JANSIでは国内外の原子力施設に関する事故・故障情報等を収集し、事業者間で共有すべき情報を抽出するとともに、必要に応じ、追加調査・検討した内容を含め、各事業者に情報提供しています。

また、原子力の安全確保、信頼性に影響を及ぼす類似事象の発生防止に資するため、これらの情報の整理及びスクリーニングを通して重要度分類を行うとともに、重要事象に対する是正措置を検討し、その内容に応じて文書を発行します。また各事業者の対応実施状況のフォローを行っています。

今般、2025年3月時点の対応状況を更新しています。更新状況は[こちら](#)をご確認ください。



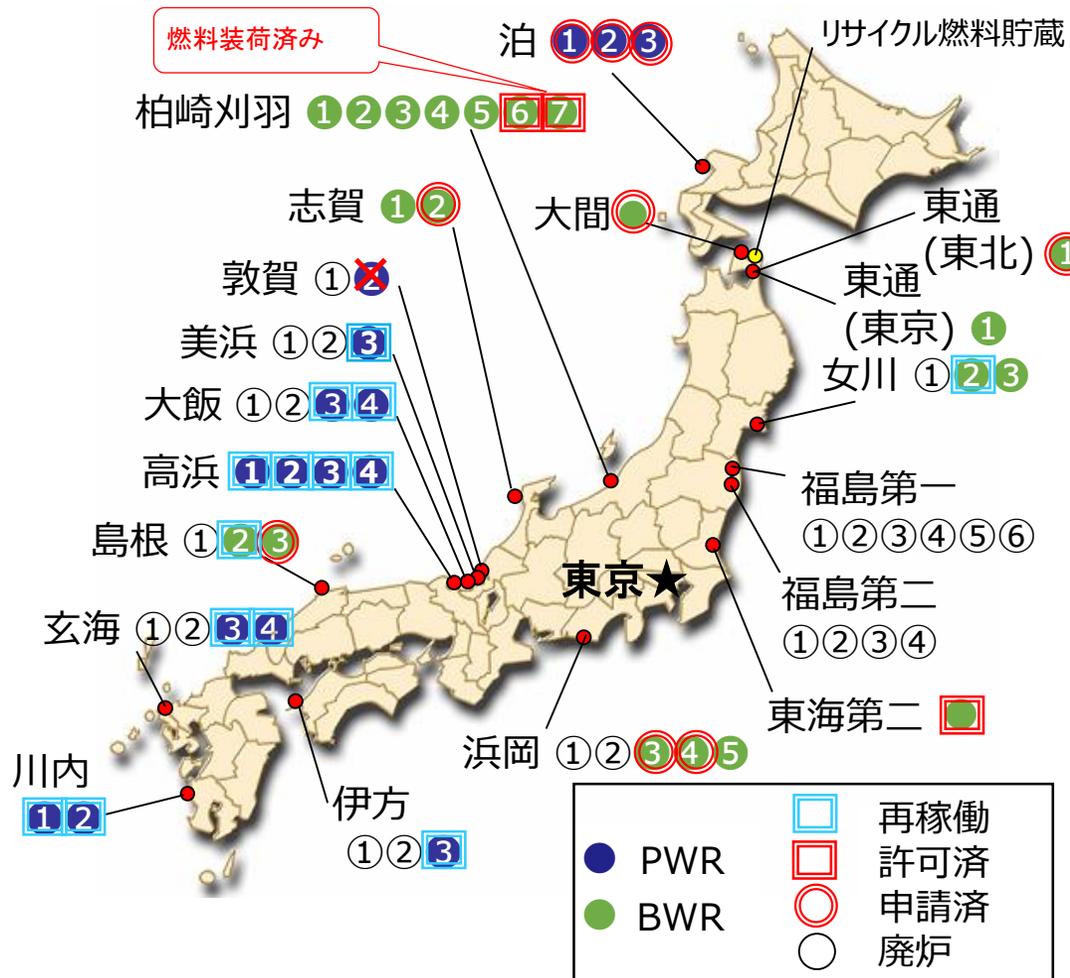
## トピックス&lt;2025年6月現在&gt;

- 4/30 原子力規制委員会は、北海道電力泊発電所3号機について、新しい規制基準に適合しているとして、事実上の合格を示す審査書案を取りまとめた。北海道電力は、津波対策の新しい防潮堤が完成する2027年の運転再開を目指している。意見公募を経て、25年夏にも正式に合格となる見通し。なお、泊発電所1、2号機については、2030年代前半の再稼働を目指す方針を明らかにしている。
- 5/19 九州電力は、2035年を見据えた経営の方向性を示す「経営ビジョン」に、「新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・設置の検討」を盛り込んだと発表した。
- 6/6 GX（グリーントランスフォーメーション）脱炭素電源法が施行され、稼働から60年を超えた原子力発電所の運転が可能となった。GX脱炭素電源法は23年5月、電気事業法や原子炉等規制法など5本の法改正を束ねて成立した。発電所が安全審査や裁判所の仮処分命令などで停止したのと同じ期間の延長を認め、実質的に「60年超」の運転ができるようになった。
- 6/25 東京電力HD柏崎刈羽原子力発電所長は25日の定例記者会見で、福島第一原子力発電所事故後、同社として初となる再稼働を目指していた柏崎刈羽原子力発電所7号機を先送りし、6号機を優先すると公表した。



# 原子力発電所の状況

- 福島第一原子力発電所事故前は、運転が54基、建設が3基、廃炉が2基（11事業者）（原型炉等除く）
- 新規制基準適合性に係る申請を27基(PWR:16基、BWR11基)が実施
- うち17基(PWR12基、BWR5基)が許可済み、再稼働は14基。廃炉は23基



新規制基準 許可状況	PWR (●)	BWR (●)	合計
再稼働 (□)	12	2	14
許可済 (□)	0	3	3
不許可 (×)	1	0	1
審査中 (○)	3	6	9
未申請	0	9	9
合計	16	20	36

上記には建設中のプラント(3基)含む

廃止ユニットの数	PWR	BWR	合計
廃炉 (○)	8	15	23

